

組織目標評価報告書（令和6年度）

部局名:

大学院保健学研究科・医学部保健学科

学域名:

保健学域

部局長名:

廣畑 聡

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	<p>課題:学部入試倍率 ・R5に導入した総合型選抜に対して、新入生アンケートなど多様なステークホルダーの意見を踏まえながら改革を継続する。一般型選抜では2.0倍以上の出願者を目指す。</p> <p>課題:国家試験合格者の向上 ・国家試験対策を含めた学生教育の質を向上させ、看護師100%、診療放射線技師92%、臨床検査技師95%以上の合格率を目指す内部質保証制度を構築する。</p> <p>課題:大学院の定員管理 ・計画的に大学院説明会を実施しつつ海外留学生を確保するなど、入試委員会が戦略的に機能して大学院の定員充足100%と定員管理に取り組む。</p> <p>課題:外国人留学生の受入増 ・外国人留学生の受入増を目指すため、新たな交流の取組を展開するとともに、赴日教育など国費留学生を増やすための方策を実行する。</p>	<p>・保健学科の一般型選抜試験では出願者は2.8倍となり目標を大きく上回った。その理由として、新入生アンケート、高大連携や県内高等学校長との懇談会など多様なステークホルダーの意見を踏まえるとともにUAAと連携を密にしたこと、入試改革を継続していることが効果的であったと考えている。さらに、オープンキャンパス、各種公開講座、高校訪問なども出願者の獲得に寄与していると考えられる。</p> <p>・国家試験合格率はそれぞれ看護師100%、診療放射線技師84%、臨床検査技師100%であった。さらに良好な成績を維持できるよう各専攻が対応を進めている。</p> <p>・大学院は博士前期課程が定員充足率104%、博士後期課程が定員充足率100%と良好な定員管理が出来ている。</p> <p>・新たな交流の取組として、シスター・ニヴェディター大学(インド)およびウイーン医科大学(オーストリア)の国際交流協定を締結した。更新も含めて2024年度に6つの海外大学と協定を締結した。赴日教育を担当したことにより国費留学生枠を1枠獲得することが出来た。部局として戦略的に取り組んでいることが効果をあげていると考えている。ソーシャルインパクト事業に採択されたことを機に、鹿田地区において医学系・歯学系と合同で国際連携ワーキングを立ち上げ、同事業に貢献する体制を整えた。</p>
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	<p>課題:科研費獲得向上にむけた取組 ・科研に新規または継続で採択(採択件数/専任教員数<math>\geq</math>75%)されて、外部資金を獲得できるように部局独自の添削事業や大型助成公募案内などの支援をおこなう。</p> <p>課題:Q1ジャーナル掲載数 ・Q1ジャーナル掲載数1.8%増(対前年度比)を目指し、部局独自の取組を加速させる。具体的には、英文校正支援や投稿料支援をおこなう。</p> <p>課題:研究倫理審査委員会の整備と研究倫理教育 ・研究科独自の倫理審査委員会を立上げ、制度の基盤を確立するとともに、教員・学生の研究倫理教育を推進する</p> <p>&lt;研究科の系としての目標・取組&gt; ※研究科の系として独自の目標・取組がある場合は、こちらにご記入ください。</p>	<p>・保健学研究科では、基盤Bの新規採択が2件増える成果をあげることができた。全体としては新規または継続が62%であった。すでに不採択申請の見直し添削など次年度に向けた対応に取り組んでいる。また外部資金獲得に向け、岡山大学病院新医療研究開発センターなどとの連携によっていくつかの案件が進行中である。</p> <p>・2024年1-12月のQ1ジャーナル掲載数は30本であり、目標値を大きく上回る前年比11%増となった。部局独自の取組としては、従来行ってきた英文校正や掲載費・オープンアクセス化支援についてQ1ジャーナルに傾斜配分を行うことで、教員がQ1ジャーナルを目指す意識が生まれつつある。</p> <p>・研究倫理審査委員会を、研究科内に立ち上げた。学部・研究科あわせて82件の申請があり、合計71件の研究が承認された。研究倫理審査教育についてもmoodleでの受講を広く周知している。</p>
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	<p>課題:地域との共創 ・地域課題へ取り組む保健学科を実現するために、デジタル田園健康特区に採択されている吉備中央町において、N-スクエアを活用して保健学科学生および教員のフィールドワークを複数回おこなうことを目指す。 ・東北の自治体・財界・学都おかもやま共創本部と連携して、津山スクール in 保健学科2024を企画し開催する。中高生40人を受入れ、模擬講義・実習体験・在学生との交流などをおこなう。</p> <p>課題:多彩なステークホルダーとの連携 ・岡山大学ホームカミングデーでの保健学科3専攻各同窓会との連携によるOB/OGと教員や在学生たちの交流イベントを連続して実施、同窓会との連携を強化する。</p>	<p>・専任のコーディネーターを採用し、コーディネーターを中心として吉備中央町へのフィールドワークを精力的に実施した。N-スクエアを3回拠点として活用するなど、フィールドワークが広がってきた。保健学科の学生が吉備中央町でのイベントにたびたび参加し、広く認知されるようになった。</p> <p>・津山スクール in 保健学科2024を実施した。東北地域の中高生26名が保健学科・保健学研究科で行われている最新の研究についての講義、聴診器や放射線装置を利用した体験学習、会話ロボットを使った未来型介護の世界を体験して、参加者からは非常に好評であった。</p> <p>・ホームカミングデーを実施した。教員・卒業生・在校生・高校生が交流を行った。参加者は37名で、進路のことや将来のことを語り合い、縦の繋がりをもつ/つくることの大切さを感じるホームカミングデーとなった。</p>
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	<p>課題:ダイバーシティ ・「文部科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」において、優秀な女性教員を海外へ積極的に派遣する。優秀な女性教員の上位採用を積極的に進めて教授への登用を目指す。 ・部局の運営会議(陪席含む)における女性教員割合を4割以上として、女性管理職の比率を高める。 ・教員業績審査委員会に女性教員を2人以上含める。</p> <p>課題:若手教員割合 ・40歳未満の若手教員20%以上を維持することを目指すとともに、優秀な教員は内部昇任も含めて活躍の場を与えるように研究科として取り組む。</p>	<p>・優秀な女性教員昇任制度を利用して、研究力のある女性教員を教授に内部昇任させた。</p> <p>・運営会議における女性教員割合は43%であり、女性管理職の比率が高まった。</p> <p>・今年度おこなわれたすべての人事(5件)において、教員業績審査委員会に必ず女性教員2名以上を委員に含めた。</p> <p>・今年度の新規採用教員は40歳未満が40%(新規採用5名中2名)であり、部局における若手教員率は20.8%となった。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。